

## 「今月の1枚」

### マツノザイセンチュウ接種検定

森林総合研究所林木育種センターではマツノザイセンチュウを人工的に接種して松くい虫に抵抗性のあるマツ（アカマツとクロマツ）を選抜しています。四国支所では土佐山田町にある四国増殖保存園で毎年この事業の補助をしています。

マツノザイセンチュウの活動が活発になる今の時期をねらって接種をおこないます。炎天下で丸一日おこなうたいへんキツイ作業です。このあとマツノザイセンチュウに対して抵抗性のあるマツだけが生き残り、選抜されたマツが抵抗性マツとして各地域に配布されていきます。



写真1 二人一組で作業をおこないます。一人がマツの根本をナイフで剥皮して、一人がマツノザイセンチュウが入った懸濁（けんたく）液を注入します。（7月18日四国増殖保存園にて撮影）



写真2 剥皮した部分にピペットで懸濁液を50 $\mu$ m正確に注入していきます。(7月18日四国増殖保存園にて撮影)



写真3 懸濁液は食紅(しよくべ)で着色されており、注入された部分は赤く染まります。(7月18日四国増殖保存園にて撮影)

(文：酒井敦、写真：門田春夫 2018年7月18日四国増殖保存園で撮影)

(No.277 2018.7.20 掲載)